

鉄相場再度ヒートアップ

鉄の相場が上昇しています。鉄スクラップから再生される代表品種の異形棒鋼を見ると、近年で一番安かったのが平成十一年で23,000円位でした。それが最近では60,000円を展望するまでに上がってきました。スクラップも製品程激しくはありませんが、徐々に上がってきています。原因は、またもや中国です。今年の2月まで上昇していたスクラップが3月に入り一変して急激な下げ相場へと変貌した原因も中国でした。この時は、政府が意図的に金融を操作し、過熱気味だった、鉄鋼への投資を抑制しました。しかしそれも沈静化し、再度、スクラップの輸入を再開したとたん相場は、上昇を始めたのです。しかし世界的に見ると堅調に推移しており、トランドとしては、上昇局面だと言



国際環境規格 ISO14001
長沼商事株式会社
埼玉県所沢市林 1-306-7

えそうです。ちなみに日本の本年度の粗鋼生産は一億一千万トン位の予測ですが、中国は二億五千万トンと生産を大きく伸ばしています。これは全世界の生産量の二十パーセントを超える勢いです。アジア地区の現在の経済成長、そして将来にわたつての、成長の可能性等を勘案すると、アジアでの需要は当面続きそうです。その中において中国の動向はボリュームもあり、影響力も大きいですから、当面、目が離せません。

社会的責任と企業統治

コンプライアンスを巡る事件が今年も後を絶ちません。企業の業績(決算書等)に現れない部分で、企業が淘汰されています。以前、アメリカでは、エコファンドが発売され、好成績を上げているとお伝えしましたが、日本でもそういった流れが出てきました。各証券会社が独自にエコファンドを発売したりしていました。が、厚年基金連合会も企業統治などについて企業にアンケート調査を行い、優れた企業を選択し、統治ファンドとして百億円を投じているそうです。その中で、一番高い評価を得たのが、帝人でした。評価項目は、「株主価値重視経営」「情報開示・説明責任」「取締役会の機能」「役員報酬システム」「法令順守・リスク管理」の5分野です。帝人はこの中の、「法令順守・リスク管理」に於いて最高点をマークしています。その他の順位は明らかではありませんが、メイテック、HOYA、オムロン、コニカミノルタHD、新生銀行、日本精工などが、それぞれの分野で一番高い

評価を獲得しているそうです。情報開示、法令順守など社会的責任をきちんと捕らえている企業などが選ばれているようです。

同じように産業廃棄物においても排出事業者が、優良事業者を選択できるように、評価基準が出来てきました。今、これが協議しているのは中央環境審議会廃棄物リサイクル部会です。評価基準となるものは、法令順守はもとより、ISO14001の認証取得や、外部会計監査の実施、そして情報開示、施設の公開などとなっています。弊社においても、現時点で、対応済みの項目も多々ありますが、優良化認定に向けてさらに努力していきたいと思えます。

弊社では、啓蒙活動の一環として、地元小学校の工場見学を毎年受けております。今年も百人くらいの子供たちがリサイクルについて勉強していきました。優良化推進ももちろん重要ですが、こちらの方が大切だと思いませんか？